


様式(細則 5-2)

令和2年11月24日

浜田市議会議長
川神 裕司 様

議員名 小川 稔宏 

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和2年11月13日(金) 13時30分～
2. 視察内容
福祉環境委員会 母子手帳アプリについて
担当委員2名 岡本正友、小川稔宏
3. 視察先
松江市
4. 調査経費 1,010 円
(経費内訳 交通費1,010円)

※ JR松江駅から松江市役所の片道タクシー運賃のみ。浜田、松江間についてはその区間を含む乗車券等購入済の他の旅行日程と重なり、視察は途中下車で対応したので、旅費の請求はしない。

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



福祉環境委員会

各自治体の母子手帳アプリについての質問事項

- 母子手帳アプリの導入や利用状況についてご教示いただきたい。
- 子育てに関する相談体制についてご教示いただきたい。
- 子育て支援に関する情報発信の手段についてご教示いただきたい。

R2年11月13日

担当議員：	(記入者) 小川稔宏
視察先： 松江市	担当課：松江市子育て部 子育て支援センター 職員名：峯さん(センター長)、石倉さん(子育て保健係長)
質問1 提携アプリについて	NTT ・ 母子モ ・ その他 NPO 法人ひまわりの会が推奨していたことから選択。
質問2 機能について 基本の機能と市独自機能など	①市が配信する情報 ・健康診査や予防接種、子育て支援事業や各種子育て支援制度の案内など ②企業や医療機関等が配信する情報 ・胎児の週数。子どもの月齢に応じて医師や専門家の監修のもと作成された育児等に役立つ情報を発信。また、子育てQ&Aなどの掲載。
質問3 予算について	無料 定時配信のみの利用している。もう一つの随時配信は年間24万円かかるために導入していない。
質問4 利用状況について	平成30年3月1日導入 登録者数 平成30年度末 856人 令和元年度末 1,206人
質問5 育児相談体制について アプリを使っただけの相談が可能か。また不可能であれば、どのような方法で行っているか (SNSの利用など)	①母子手帳アプリでの相談は出来ない。 ②ビデオ通話によりお互いの顔を見ながら対応できる、オンラインでの個別相談・健康指導を実施。保健師⇄お母さん。 事業：オンラインでの個別相談・健康指導を希望する子の親等、妊産婦。 実施方法：タブレットにて、アプリ(Webex)を活用。 周知：市HP等で情報提供し、希望者と日時を調整する。 (1件30分程度) ※プライバシーの保護のため、相談は執務室以外の個室で行う。

【裏面へ】

質問 6 利用者の評価について	・登録者数をもって評価とする。アンケートは取っていない。
質問 7 アプリ導入後の成果について	利用者からの意見 ・妊娠週数、子の月齢に応じたタイムリーな情報を得ることが出来る。 ・プレパパ・プレママ教室など各種教室への参加のきっかけとなった。
質問 8 課題について	有料サービスである随時配信の導入について検討。

その他

- ・子育て支援に関する情報発信の手段

■ オンライン活用事例

- ・市公式 Facebook や Twitter を活用した情報発信

具体例：写真を活用して、子育て情報を配信中。各種教室・相談事業で啓発していた内容（離乳食作り・ブラッシング・親子のふれあい遊びなどの実演）を動画配信し、参加せずとも必要な情報を得られるようにする予定。

- ・動画配信にて研修会を実施（You tube 限定配信）希望者のみ。

- ・まつえの子育て AI コンシェルジュ事業

子育てに関する悩みを LINE 上で相談できる。開始に向けて、現在準備中。

（担当課：安心子育て推進室）

〔メモ〕

母子手帳アプリについて話を伺った。松江市が導入しているシステム導入時には必要な基本的な情報を集めて入力する作業はあるものの以降は年に一度、追加変更等を行うだけで手間はかからないようでした。平成 30 年 3 月に導入されて以降利用者数も増加していますが、子育ての悩み相談などがアプリでは出来ないことから、このアプリのバージョンアップに力を入れる考えはないようで、有料の随時配信を検討する程度。むしろ他のオンラインを活用した動画配信等の情報発信を充実させる方向のようです。特に「まつえの子育て AI コンシェルジュ事業」の準備に力を入れられておられます。質問に対して AI 回答するというシステムの準備をコンペで 300 万円程度を見込まれていました。また、松江市の子育て施策の中で大きな役割を担っているのが 29 の公民館単位で保健師の地区担当制が定着していることが特徴的でした。その他、個人情報保護が障害となり手を差し伸べる必要があるところに入れないという課題もあると言われていました。